

今月の安全運転管理

ちょっとした油断が スリップ事故のもと

①無事故で冬期を乗り越えよう

- 凍結しやすい場所を周知しよう
- 天候等の情報を的確に運転者に伝えよう

②静電気による引火事故を防ごう

- セルフスタンドの引火事故を防止しよう



凍結しやすい場所を周知しよう

一年でもっとも寒さが厳しくなるこの時期は、凍結路や積雪路でのスリップ事故の多発が懸念されます。

橋の上やトンネルの出入口、道路の日陰部分、切り通し、といった凍結しやすい場所を周知しておきましょう。

また、そのような場所を走行する際は、速度を落とす、急ハンドル、急ブレーキなどの「急」のつく操作をしない、車間距離を大きくとる、といったことを徹底するよう指導しましょう。

凍結は朝だけでなく、夕方から夜にかけて気温が下がることでも発生します。帰宅時間帯などでも油断せず、緊張感を持って運転することを呼び掛けましょう。

天候等の情報を的確に運転者に伝える体制を構築しましょう

通信環境の進化により、リ

アルタイムで、運行ルート上の気象情報や道路状況を把握することができるようになりました。

ルート上の積雪や凍結の有無などの気象情報、渋滞などの道路情報を収集し、的確に運転者に伝えることができる体制を構築しておきましょう。

近年、大雪で立ち往生するなど、予期せぬトラブルで運行に支障が出るケースが発生しています。このようなトラブルは情報を早めに入手することで、迂回ルートを示すなどの対策を立てることが出来ます。

日頃からこまめに気象・道路状況をチェックすることを心掛けてください。

セルフスタンドでの注意点を指導しよう

令和四年三月末現在、県内には六三七軒のセルフ式ガソリンスタンドがあり、その数は全国トップです（一般財団法人日本エネルギー経済

研究所石油情報センター調べ）。

セルフ式ガソリンスタンドでは、給油中に静電気による火花で引火したり、ガソリンが吹きこぼれるなどとして、火災になる事故が発生しています。セルフ式ガソリンスタンドでの注意点を指導しましょう。

まず、給油口を開ける前には必ず静電気除去シートに触れ、身体にたまった静電気を取り除きましょう。静電気がたまりやすいこの時期は、とくに注意が必要です。

また、給油中はノズルから手を離さない、継ぎ足し給油をしない、車内でもタバコ等の火気厳禁、一人で作業を行うなどの注意点を徹底するよう指導しましょう。

